

平成 1 6 年度 山形大学医学部 後期試験問題 英語小論文

平成 1 6 年 1 1 月 2 6 日 安倍富士男

課題文は医療現場におけるユーモアの効用について述べたものである。

問 1 biological effects の具体的な内容を解説しなさい。

(考え方)

ユーモアや笑いが持つプラス面の生物学的な効果の具体例が本文で述べられている箇所を捜すこと。答は 2 カ所に見られる。

1 カ所目 第一段落の最後の文

1 1 0 分間笑うことによって、2 時間の無痛睡眠をもたらす。

2 カ所目 第 2 段落の後半 (Vigorous laughter) から最後まで。各センテンスごとに 4 つのポイントを押さえること。

2 快活な笑いは、筋肉を動かし、心拍数、血圧、呼吸回数を増加させることで体を刺激する。

3 笑った後は、筋肉活動が低下し、血圧、心拍数、呼吸回数が低下するのでリラックスする。

4 免疫細胞の数と活動を増やすので、笑いは免疫システムに対して恩恵がある。

5 笑いはストレス反応ホルモンの集中を減らす。

問 2 poorly reciprocated laughter (お互いに笑いあわないような状況の笑い) が何をもたらすかを考え、空欄 A、B に入るべき内容を日本語で簡潔に記せ。

(考え方)

poorly reciprocated laughter can indicate (A) and (B) の次に「だから専門家と患者の双方が笑うことが大事だ」と述べているので、「患者と医師の間で片方だけが笑ったら、それは何を意味するかを考えればよい。

(解答例) 患者への侮蔑、相互不信、患者の病状に関する認識不足、など。

問 3 バーナードショーの言葉を筆者はどんな意味で引用したのか。末期医療をキーワードに日本語 2 0 0 字以内で述べよ。

(考え方)

皮肉屋バーナードショーの言葉は、次の通り。

Life is not cease to be funny when people die any more than it ceases to be serious when people laugh.

文法的には not A any more than B (B と同様に A でない) と cease to (~ することをやめる)。従って意味は次の通り。

「人が笑う時でさえ、人生は深刻であることをやめない。それと同じように、いやそれ以上に人は死

ぬときでさえ、人生は愉快であることをやめない。」

従って、文中から「人生と同様に末期医療にとってさえも、人である限り笑い、楽しさ、おかしみが必要である。」という主張を捜して述べること。第 6 段落中に求める答がある。

(解答例)

末期医療に携わると、死に直面するため謹厳な態度で患者に臨みがちだ。しかし、末期症状の病気の分析からユーモアは患者の生活に欠くことができないことが判明している。8 5 % の末期患者は適切なユーモアは役に立つと考えている。ユーモアは患者、家族、看護者が死に伴う不安や絶望を乗り越えるのに役立つ有効な道具になりうるという意味で引用した。

問 4 Medical humour を医療現場で用いることの精神面、社会的側面の利点を 4 つ日本語で列記しなさい。

(考え方)

第 3 段落に「medical setting (医療環境) において様々にユーモアは使われる」とあるので、第 3 段落から具体的利点を 4 つ抜き出す。

(解答例)

ユーモアは医療現場のスタッフにやる気を持続させる効果がある。

ユーモアは様々な医療分野の看護従事者によって患者への接し方として用いられる。

ユーモアは専門家と患者のコミュニケーションに重要な役割を果たす。

ユーモアは看護従事者の集団内で円滑なコミュニケーションの役割を果たす。